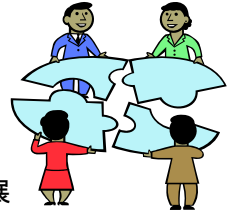


# 北海道 IBD 2006 年度運動方針

「会員同士の出会いと語らいの場」を大切にしましょう。友の会は「お互いの顔の見える、会員の意見交換が進む」活動方針を掲げ、事業を行います。



## 1、創意的な活動で会員の要望に応えましょう。

患者会に入会される方の要望に細やかに対応するため、「若者」「母親」など階層ごとの活動には、開催場所など工夫を凝らし多様化させるなど発展させ、病気を抱えながら暮らす智恵の交流を進め出会いを楽しみましょう。企画参加者数だけではなく内容的質を更に高めるようにしましょう。

## 2、広い北海道、狭い日本、どこでも楽しく北海道 IBD の仲間と会いましょう。

5つの地方支部の運動を盛んにし、また支部のない地域での患者交流の機会(サテライト集会)を更に作りましょう。各地会員の交流や、「紙面参加」などの機会を増やしましょう。

## 3、病気に対する正しい知識を学び、それを生かして実践しましょう。

進歩している医療、絶えず変わる社会保障制度の勉強会を繰り返しましょう。北海道IBDの伝統である料理教室や新入会員オリエンテーション、昨年より発行した「IBDブックレット」などで「食事療法」「気持ち切替え療法」を全支部でも広めましょう。

## 4、作業の分散と統一により、大勢の参加で創意的な機関誌活動を盛り上げ、会員の心を結び、活性化しましょう。

## 5、全国の仲間、北海道難病連や世界の仲間と連帯を強めましょう

バザーやレク活動など北海道難病連の行事へ積極的に参加し、視野を広げましょう。IBDネットワークとともにすすみ、全国規模でIBD患者の要望実現を目指しましょう。

## 6、みんなの要望を明確にし、具体化して各方面への要望を強めましょう。

新薬開発や新治療法普及など国や自治体への要望を明確にし、また札幌市を始め各地の保健所と共同で患者交流会を目指しましょう。IBD 患者の身体障がい者適用拡大の取組を検討し、病名告知初期の患者支援を強化しましょう。このほかいろいろな可能性を求めて活動を行いましょう。

